

モズ

Lanius bucephalus

モズ科・夏鳥

名前の由来

多くの鳥の声を真似ることから「百鳥（ももとり）の声のよう」といわれ、これが転じてモズになったと思われる。また、百舌（ももした）からモス→モズと転じたともいわれる。漢字名：百舌



撮影：叶内拓哉

モズ（オス）。目を通る顔の線がくっきり

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葦原・樹林)
ワシタカ
鳥類

特定種

該当なし

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）20cm。スズメよりはるかに大きい。頭が大きく尾が長い。

くちばしは太く、上のくちばしは鉤型に下に曲がっている上、先端に鋭い突出部やくぼみがあって2段の鉤となっていて、上下でしっかりかみ合うようにできている。

また、4本の足指のうち後の指が発達している。

オスの頭はオレンジがかった褐色、背は青灰色で翼は黒い。顔にはくちばしの付け根から眼を横切る太い黒帯がある。眉のような白い模様も目立つ。下面の脇はオレンジ色。翼は黒くて白い点がある。

メスは頭から背中が褐色。顔の太い帯は褐色がかって淡く、顔から体の下面にかけて褐色の細い波のような横線がたくさんある。

声：秋に「キィーキィキィキィ」と高鳴きをする。繁殖期には大きな声でのさえずりはせず、「ジュンジュンジュン、チュピリリ」などと小さな声で複雑な声を出す。

地鳴き（さえずりではない普通の鳴き方）では「キィー」「キキッ」「ジュン」などと鳴く。他の鳥の鳴き真似もする。

飛び方：短距離の場合には地上低くを飛ぶことが多く、スーッと直線的に飛んで、杭などにフワッととまる。

長い距離を飛ぶ場合には、羽ばたきと翼を閉じての滑空を

繰り返す、波のような飛行曲線を描く。

類似種と区別点：チゴモズ、アカモズ、オオモズ。

チゴモズは背が褐色。

アカモズは顔が白く、頭から背中、尾までが赤褐色。

オオモズは大きくて上面がすべて灰色、尾羽の外側が白い。



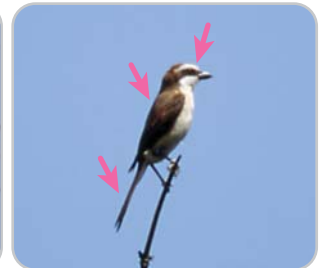
モズのオス。頭が茶で背が灰色



モズのメス。顔の線が淡い



オオモズ。頭と背が灰色



アカモズ。頭も背も尾も赤褐色

生息環境・分布

農耕地周辺、高原、林縁、川原など、低木のある開けた環境で繁殖する。十勝では夏鳥。

分布：サハリン、ロシア沿海地方南部から中国北部、朝鮮半島に分布する。

日本では全国に留鳥として年中生息する。

北海道では夏鳥として繁殖し低地から山地まで見られる。道東、道北では少ない。まれに越冬するものがある。

十勝には夏鳥として4月上・中旬に渡来、繁殖する。農地、河川敷、幼齢人工林などに生息する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期				繁殖								
本州以南 (越冬期・通年)	繁殖											

食性・他生物との関わり

昆虫やミミズ、カエルやヘビなどの両生・爬虫類、鳥類、ネズミなどの小哺乳類も食べる。

捕食法としては、枯れ枝などにとまって地上を探し昆虫に襲いかかる方法、土中のミミズや草むらの昆虫を探したりほじくったりする方法、小鳥を襲撃して捕らえる方法、トンボなど空中を飛ぶ小昆虫を捕らえる方法、などがあるという。

繁殖生態

繁殖期は4月中旬～7月(越冬する地域では2月下旬から)、一夫一妻で繁殖する。

つがいは、越冬地域での例になるが、メスがオスのなわばりを訪れ、メスが選ぶことでできるという。(→興味深い話の項参照)

巣は低木や藪の中に、小枝、枯草などを用いてお椀型に作られる。巣はオスメス共同で作られるが、オスが主に外装、

秋から冬にかけては獲物を木の枝などに串刺しにする「はやにえ」の習性がある。(→興味深い話の項参照)

餌中の骨やキチン質などの不消化物をペリットとして吐き出す。

カッコウに托卵されることがある。

捕食者は猛禽類など。

メスが主に内装と産座、という分担があるという。

3～6個産卵し、メスだけが卵を抱いて、その間オスはメスに給餌するという。

14～15日ヒナがかえる。オスメス共同で給餌し、約14日でヒナは巣立つ。

巣立ち後も15日以上家族で暮らすという。

興味深い話

■標識調査で、8年1ヶ月の生存が確認されている。

■ワシやタカの仲間ではないが、ガッシリして鉤型に曲がり鋭くとがったくちばし、後ろ足指が発達した足、動物食であること、採餌形態、などから小型の猛禽ともいわれる。

■捕らえた昆虫やかえるなどを木の枝や鉄条網などにさして「モズのはやにえ(早贄)」を作る習性がある。理由としては本能説、食べ残し説、貯食説などいろいろ言われているが、結論は出ていない。

■越冬する地域での観察例になるが、つがいはメスがオスのなわばりを訪ね、メスが選択してできるという(山岸、1981)。訪れたメスに対して、オスは初めは追いかけ回しや攻撃を行うが、メスの定着に伴って求愛ダンスを行うという。求愛ダンスはオスが体を伸ばし、顔の黒い線をメスの前で左右に振るといふもの。求愛ダンスをする間にオスは不明瞭な鳴き方をするが、ウグイスやホオジロ、ヒバリなどの鳴き真似も挿入されるという。

■つがいができると餌をねだるメスに対してオスは求愛給

餌を行うという。

■一夫一妻といわれているが、婚外交尾もあることがDNA指紋法によって明らかにされている(唐沢、1982)。同じ巣に育てても、10%程度の割合で、他のオスの血を受けた子どもがいるらしい。

■カッコウに托卵されることがある。

■日本全体では留鳥だが、北海道など北日本のものは冬になると暖かいところに移動する。その際、オスの方が寒いところにとどまる傾向が強いという。



モズのはやにえ。
ドロヤナギの冬芽に
突き刺されたスズメバチ

配慮事項

昆虫や両生類が生息し、とまり場や営巣場所となる低木がある、多様な環境が必要である。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックス2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994増補版7刷)
「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「鳥類観測ステーション報告」(財)山階鳥類研究所、1996

「北海道の野鳥」藤巻裕蔵・小堀煌治、北海道新聞社 1997
「十勝と釧路の野鳥」日本野鳥の会 十勝支部・釧路支部、1987
「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995
「モズの話」唐沢孝一、北隆館 1980
「鳥のおもしろ私生活」ビッキオ 編著、主婦と生活社 1997
「モズの嫁入り」山岸哲、大日本図書 1981

唐沢孝一 (1982) 育雛初期におけるモズの捕食行動. 鳥, 31 : 57-68
倉田篤 (1967) モズの社会機構、特に繁殖期におけるなわばり制について. 鳥, 18 : 153-164.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(鳥辺)
鳥類

(葎原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ